



かけはし

第 10 号

平成30年 2月 1日

ふるさと智恵文に誇りをもつ輝く智小っ子を「地域ぐるみ」で育てましょう

「増ゆ」(冬)と「張る」(春)と「裂く」(咲く)季節

校長 川崎直人

3学期が始まり2週間が過ぎました。ホップ・ステップからのいよいよジャンプの3学期。年間の総仕上げの3学期。そして、次年度の進級・進学に備える3学期。3学期は、1年間の総まとめ、総仕上げをして、一人ひとりが自分のよさと可能性を見いだす学期です。私たち教職員一同は、子どもたち一人ひとりがこの1年間でどう成長したか、次の年度に期待することは何かを具体的に見だし、希望や目標を高くもって新たな学年に向かうようリードしていきたいと考えています。



始業式に30人の子どもたちを前に以下のような話をしました。

「今、学校の花壇は雪の中です。その中には、春に咲くチューリップの球根や花の種が植えられています。寒い冬でも土の中で暖かい春を待ち、きれいな花を咲かせるためにじっと待っているのです。でも、ただ待っているのではなく、植物たちは、立派な大きなきれいな花を咲かせるために、エネルギーを蓄える努力をしているのです。目に見えないけれど、エネルギーを増やす努力をし、大きな体を作る季節が「増ゆ」冬です。エネルギーがどんどん増えてくると、体の中にエネルギーがたまり、体が張ってきます。その張ってくる季節が「張る」春です。張って張って体が耐えきれなくなると裂けてしまいます。その裂ける状態が「咲く」ということだと考えています。植物に例えて寒い冬とやがて来る春に花が咲く話をしましたが、今の学年のエネルギーを体全体に蓄えてパンパンに張って、春に見事に咲き誇れるように準備万全の状態にしておくことです。寒さに負けず元気に体を動かし、目標をしっかり立てて計画的に復習とまとめができるようにしてください。心と体と頭脳を鍛え、一回りも二回りも大きくなって咲く準備をするのが3学期です。」

それから毎日元気いっぱい体育館やグラウンドで遊び回る子どもたちの様子を見ているとエネルギーをためるところか、有り余って発散させてあげないと、すぐにでも「裂く」状態になってしまいそうです。残り少ない3学期を全ての子どもたちに有意義な時間となるように、子どもたちとの対話を大切にしながら私たちも努力していきます。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。